

## 第7回千葉県新型コロナウイルス感染症対策連絡会議 専門部会 概要

1 日時 令和2年6月30日（火）18:00～20:10

2 場所 千葉県庁本庁舎5階 特別会議室

### 3 委員（敬称略・外部委員につき五十音順）

猪狩 英俊	千葉大学医学部附属病院 感染制御部長
入江 康文	公益社団法人千葉県医師会 会長
亀田 信介	一般社団法人日本病院会千葉県支部 支部長
神山 潤	東京ベイ・浦安市川医療センター 管理者
小森 功夫	松戸市立総合医療センター 副院長
角南 勝介	成田赤十字病院 病院長
寺口 恵子	公益社団法人千葉県看護協会 会長
中村 朗	総合病院国保旭中央病院 化学療法科 院長補佐
西牟田 敏之	公益社団法人千葉県医師会 公衆衛生担当理事
馳 亮太	成田赤十字病院 感染症科部長
宮崎 勝	国際医療福祉大学成田病院 病院長
山本 修一	千葉大学 副学長
石川 秀一郎	千葉県衛生研究所 所長
杉戸 一寿	千葉県保健所長会 会長
山崎 晋一郎	千葉県病院局長

### 4 関係機関等

舘岡 恭子	千葉市保健福祉局 医療政策課 担当課長
筒井 勝	船橋市保健所 所長
戸来 小太郎	柏市保健所 保健予防課 課長
松本 尚	千葉県災害医療コーディネーター
亀田 義人	千葉大学医学部附属病院 特任講師

吉村 健佑 千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター  
センター長

佐藤 大介 千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター  
特任准教授

## 5 県側出席者

加瀬 博夫 健康福祉部長  
渡辺 真俊 保健医療担当部長  
中村 勝浩 健康福祉部 次長  
石出 広 健康福祉部 次長  
久保 秀一 健康危機対策監  
井上 容子 健康福祉政策課長  
舘岡 聰 疾病対策課長  
田村 圭 医療整備課長  
高馬 洋之 衛生指導課 副課長

## 6 議題に係る主な意見等

### ○新型コロナウイルスの発生動向について

- ・夜の街関連での感染の発生は、話題として取り上げられやすいが、普通の飲食店などでも感染が広がってきていることに注目すべき。
- ・新型コロナウイルス感染症は検査だけでなく、病歴調査が非常に大切。そういう時に、県で有している詳細な情報が医療現場に還元されると助かる。最前線の医療従事者のために、報道ベース以上の情報が得られるようにしてほしい。
- ・感染者が若年化していることを踏まえると、感染予防の啓発などに、SNSを用いることが効果的ではないか。

### ○新たな病床計画報告と重点医療機関の指定の現状について

- ・第1波では、フェーズ2までを経験したと言える。それ以降は未経験の領域なので、フェーズが2になった段階で、フェーズ3への移行の判断基準を決めておかないと、次の対応が間に合わなくなる。
- ・フェーズの移行のタイミングを二次医療圏ごとか、ある程度まとまった地域で行うか、整理しておく必要がある。
- ・各フェーズの感染状況は、流行の勢いとして、1日あたりの感染者数が分かるとイメージしやすい。
- ・東葛南部・北部から他地域への入院を進めることについて、ある程度基準のようなものが必要ではないか。
- ・フェーズの移行には、東京都、埼玉県の数字についても考慮するとよいと思われる。
- ・最初から重点医療機関に軽症の患者を入院させると、一気に患者が増えた時に入院の対応ができなくなる。医療的バックアップをした上で、最初のフェーズからホテルを活用すべきではないか。
- ・医療機関への入院の順番は、まずは感染症指定医療機関、その次に重点医療機関、更にその後一般医療機関・ホテルがあるべき。ある地域内で、感染症指定病床が埋まったら、県全体の対応として、隣接する地域の感染症指定医療機関に対応を任せる、という考え方もある。

## ○クラスター等対策チームの設置等について

・クラスター等対策チームに登録する医師やナースはハイレベルな方々なので、ホテルへの派遣も想定しているようだが、人材の配置として適当ではないのではないか。また、負荷がかかりすぎるのではないか。

## ○ホテル運営における医療提供体制について

・各病院から派遣できる医師や看護師の数は限られているので、一つのホテルに派遣するスタッフの人数は必要最小限としてほしい。また、現在は、県と保健所設置市（千葉市、船橋市及び柏市）それぞれがホテルを確保し、医療スタッフを用意しているが、県全体でホテルを集約すれば、必要なスタッフの数は減るのではないか。

・ホテルは、感染者のうち比較的元気な方が行くので、オンライン診療のように、医師が直接現地に行かないような診察の方法も考える必要があるのではないか。

## ○その他

・海外からの帰国者が増加している。将来的に検疫で実施する PCR 検査の結果、陽性となった患者で千葉県の病床が埋まる可能性があるため、検疫と情報共有する必要があると考えられる。